



秋の風物詩「ふるさと祭り」

体験ブースや物産ブースに人だかりが

奥大井ふるさと祭り実行委員会が主催する奥大井ふるさと祭りは10月25日（天候不順のため1日延期）、音戯の郷前特設会場で開かれました。特設ステージでは沖縄から来町したエイサーチームによる迫力の獅子舞や優雅な演舞が披露され、会場から大きな拍手が送られました。地場産品を販売するブースには、ヤマメの塩焼きや蕎麦など、自慢の特産品が目白押し。大勢の人が舌鼓を打ちました。

つるかご作りや木工工作など体験コーナーも人気で、子どもたちが一生懸命工作に打ち込んでいました。

晴天に恵まれた25日。大勢の来場者が、紅葉に染まる秋の川根本町を満喫しました。

この町に起った
新鮮な「ネタ」を皆さん元へ。
この次に登場するのは
あなたかも!?



14年ぶりの快挙を喜び合う

中川根野球少年団が選抜大会で第3位

第30回選抜少年野球学童部川根大会は11月21、22日の2日間、町営グラウンドで開催され、熱戦を繰り広げました。順調に勝利を重ねた中川根野球少年団は、準決勝で惜敗したものの見事3位に入賞。14年ぶりとなる快挙に選手・スタッフ全員が喜びを分かち合いました。あるスタッフは大会後、「大きな大会で結果を残せたのはチーム一丸となって挑んだ成果。支えてくださった皆さんに感謝しています」と話していました。



悪質な訪問販売に注意して

悪質商法から身を守る講演会を開催

「消費者事例講演会」は11月26日、山村開発センターで開かれました。講演では、中部県民生活センターの櫻井由利消費生活専門相談員が、悪質な訪問販売や催眠商法など手口の巧妙さ・怖ろしさについて、具体例を挙げながら解説。「自分だけは被害に遭わないなんて思わないで。いつ自分の身に降りかかるか誰にも分かりません。迷ったり困ったりしたらまず相談することが大切です」と来場者に訴えかけました。

成年後見制度の理解深める

神田織音さんによる成年後見制度講談

「講談で学ぶ成年後見制度」は11月28日、文化会館で開かれました。成年後見制度とは、判断能力が低下した人を法律で保護・支援するため、本人にかわって財産管理や契約をする後見人をたてる制度のこと。第1部では、社会福祉法人桂カリタス21の飯塚哲男社会福祉士が制度の仕組みや種類などを、第2部では講談師の神田織音さんが悪徳商法の手口などを紹介。会場を埋めた150人の来場者は、本制度への理解を深めました。



新しいやまびこ号お目見え

移動図書館車が新しくなりました

移動図書館車やまびこ号の新車がお目見えしました。この車両は、車両後部に車いす用の昇降リフトが着き、通路スペースを広く取るなど、利用者が使いやすいよう工夫されています。

車両全体はクリーム色で塗装され、各種イベントなどの宣伝告知に使用する予定です。車内の本棚には、児童書や一般図書、図鑑などさまざまなジャンルの本が並びます。利用法はこれまで同様、図書カードに記入するだけ。新車両は26日、担当職員による本の積み込み作業がなされ、その翌日には運行を開始しました。



産業文化祭実行委員会が主催する産業文化祭は11月22日、役場本庁舎周辺で開催され、大勢の人でぎわいました。特設ステージでは、子どもたちの可愛らしい演技や迫力ある空手の演舞などに大きな拍手が送られました。物産会場では、商工会や奥大井特産振興会、女性の会などによる物産市が軒を連ね、多くの人が秋の味覚を堪能しました。遊びコーナーでは、的当てゲームや竹製の水鉄砲、おはじきなど、昔ながらのおもちゃに子どもたちが夢中に。林業研究会による木工体験、中電大井川電力センターの流木工作など、多彩な体験コーナーも人気でした。同時開催された「健康まつり」では国保連合会による体力測定や医師による健康相談などに大勢の人が並びました。来場者は、秋の深まりを感じながら、繰り広げられる多彩な催しを楽しみました。

魅力を再発見「産業文化祭」

さまざまな催しをみんなで楽しんだ



Topics

川根本町の まちの話題

